恋人としての終焉。

小豆色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
恋人としての終焉。

【Ｎコード】
Ｎ９２７１Ｚ

【作者名】
小豆色

【あらすじ】
大切な人を守れなかったときの虚脱感は、いかなる聖人君子にも耐え難きものです。

週末になったら、遊びに行こう？と、彼女は言った。
いいよ、どこに行こうか。と、僕は問いかけた。
じゃあ、久しぶりに海にに行こうよ！
私と一緒に泳ごうよ。きっと楽しいだろうな。と、彼女はすぐに決めた。
別に文句はなかった。彼女といられるだけで幸せだった。
でも、僕は分かってなかった。それがどんなに傲慢であったかを。
どんなに大切で、最高の幸せであるのかを。
それを僕は、身をもって知ることになった。
約束の一日前。土曜日の、十一時五十八分。
大地が揺れ、地割れを起こし始めた。
世界でも類を見ない、人類史上最悪の地震だった。
私が住んでいる地域は、ほぼ壊滅した。
震源から約百キロ。普通ならそこまでの被害はないはずだった。
しかし、それでもマグニチュードは「測定不能」。
震度にいたっては「∞」とエラーを起こして観測できなかった。
いかに耐震工事が進んだ建物といっても、所詮は自然の前では無力だと、
そう暗示されるのごとくすべてが崩れた。
すべての人間が無力となった。
後に大天災と呼ばれるこの地震によって、人間がたくさん死んだ。
震源地から七十キロの範囲はもう海となっているらしい。
人間の栄光の一部はもう海の藻屑となっているだろう。
そして、僕の大切な恋人も死んでしまった。
瓦礫の下に埋もれていたという。人生とは、なんと非情な物なのだろうか。
何も今でなくてよかったではないか。

あと一日、あと一日待っていてくれたら、僕は彼女と一緒に死ねたのに。
そうでなくとも、彼女の笑顔をもう一回見られたのに。
彼女が死んだ。その事実は僕には重すぎた。
彼女のためにも生きていくことも考えた。
こんなこと、彼女が望んでいないことも分かっている。
でも、無理。彼女なき世にこれ以上何も望まない。
背後では波がうねり狂っていた。この前沈んだ人間の町の上で。
もう、会いに行くよ。
だからさ…また笑顔を見せてね。
そう思い、重心を後ろに傾けたときだった。
「おや、あなたも自殺者ですか？」
渋く、深く、しかし落ち着いた声が僕の耳に届いた。
見ると、初老程度の老人が立っていた。
僕は重心を傾けたまま話しかける。
「…あなたは、いえ。あなたもですか？」
その老人はどこか吹っ切れた、すがすがしい面持ち。
自殺願望者を目の前にしてもまったく動じない様子から判断して、
おそらく彼も、僕と同類なのだろう。
「ええ、娘家族を亡くしました。妻にも先立たれていたのでもう一人です。
あなたは誰を失いましたか？」
「僕は彼女を失いました。今から会いに行くところです」
天国が存在するのかは分からない。
魂なんてものもあるかは分からない。
でも。あると信じている。再び会えると信じている。
別に、いいではないか。少しくらい夢を見ていても。
「そうですか。こんなじじいと一緒なんて嫌でしょう。
でも、いかがですか？冥界の道すがら、色々な話をしてあげられますよ。

退屈をなくして差し上げましょう」
そういって、満面の笑みで私の横に来る。
ああ、何故、何故こういった人ばかり犠牲になるのだろうか。
僕たちには何の罪もなかったと言うのに…
「ありがとうございます。では、参りましょうか」
そういった後、僕たちは海へと身を投げた。
一瞬の浮遊感のあと、すさまじい勢いが私の意識を襲った。
ああ、もう会いにいけるよ。
情けない僕だったけど、天国でも、たとえ地獄だったとしても。
これからも、よろしく…
そこまで考えたところで、僕の意識は泡となって消えた。
奇遇にも、彼女の家が在ったほうへと流されながら。

（後書き）

地震の時間と曜日は関東大震災のものです。
この場を借りて、すべての災害へと亡くなった人へ、
ご冥福お祈り申し上げます。
どうか、天国では楽しく過ごしていてください。
それでは、閲覧ありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9271z/

恋人としての終焉。

2011年12月28日23時45分発行